

ガンコ親父の

クリスマスが近づく日、花菜はついに産科へ入院した。昨年、松次郎一家では花菜が一人でツリーや可愛いオーナメントを買い込み、家の中を飾っていた。装飾係を失った今年は「俺がやる」と松次郎が装飾を買って出た。「また、手づくりのくす玉を用意するんだろ?」と娘が冷やかした。

松次郎は物置小屋からクリスマスツリーを引っ張りだし、居間のテレビの横に据えた。花菜の退院も一緒に祝えるかも知れないとだけで、飾り付けにも力が入った。飾り付けも終わり、一息つこうと寝転ぶと、思いもよらぬ不思議な睡魔が松次郎を襲った。そしていきなり夢が現れた。

若くて貧しい松次郎夫婦は、互いに贈るクリスマスのプレゼントのことを考えていた。妻の貴代の描く水彩画が大好きで、特にその中に一枚の傑作があった。だが、松次郎には額縁を買ってあげるお金がなく、そのまま部屋の片隅に眠っていた。気がかりだった松次郎は、思い切って額縁を贈ろうと考えた。しかし、蓄えもない松次郎に出来ることはひとつ。唯一の楽しみである酒をしばらく止めて、捻出したお金を額縁代に当てることが出来なかつた。

お金のかかる趣味やおしゃれに、いつさい興味を示さない松次郎のことを思うと、貴代は辛かつた。家計のことを考えれば、貴代は松次郎のそんなやせ我慢に感謝するしかなかつた。ただ、毎日すするように大切に飲む少量のお酒代だけはなんとか両面できていたが、「ふちの欠けた茶碗での酒」はなんともみすぼらしい。いくら貧しくても、もう江戸・長屋の傘ハリ浪人の時代ではないのだから。貴代は陶器のカップを贈ろうと思った。そう、一枚の絵を売つて。

額縁はついていないが、あの絵なら売れるかもしれない……

そして、贈り物を交換するクリスマスがやって來た。水彩画が無くなつていて、気に付かない松次郎は、意気揚々と上品な額縁の大きな包みを貴代に渡した。貴代はそつと陶器の酒カップの包装を松次郎に手渡した。包みを解いた後、一人は黙つて贈り物を見つめたが、わかり合うのに時間がかかるなかつた。互いの相手を思う心が感激を呼び、一人を包んだ。そして涙ながらに笑い始めた。

「お父さん、お父さん」と松次郎を呼ぶ声が聞こえてきた。うつかり寝込んでいた松次郎は貴代に起こされた。

「風邪引きますよ、そんなところで。

笑つていましたよ、寝たままで。

なにか良いことでもあつたんですか。

ところで、今、病院から電話がありましたよ。

「どうか、クリスマスの最高のプレゼント

だなあ」「無事に産まれるといいですね」一人の顔は明るかつた。「本当にいいクリスマスだ。

ところで『しまっちゃん伝説』は

切れていないだろうな。

あ、それから、ほら、アメリカの作家が書いた、なんとかの贈り物とかいう物語があつたな?』と松次郎は貴代に尋ねたが、貴代は『はい、はい』と言いながら、よく夕食準備の台所に向かった。

25度

好評発売中



2009年10月新規販売
に選ばれ、加賞! プラチナアワード
喜界島酒造は、この活動を
応援しています。

くろちらう 喜界島酒造株式会社
鹿児島県大島郡喜界町赤連2966番地1
TEL 0997(65)0251



喜界町
鹿児島県

2013年春季全国酒類コンクール・黒糖焼酎部門第1位受賞

贈り物に乾杯!



2013年春季全国酒類コンクール・黒糖焼酎部門第1位受賞

常圧蒸留

伝 説

でん
ぞう

昔ながらの手造り
こだわり焼酎

喜界島の豊沃な大地の土と豊かな自然の中で、水年の伝統に受け継がれた製法でじっくりと醸しあげた『しまっちゃん伝説』黒糖焼酎の味を全曲に出し昔ながらのコクのある味と香ります。

